(2)　介護支援専門員の職業意識形成に関する研究
－ベテラン介護支援専門員の聞き取りから－

川崎医療福祉大学大学院医療福祉学専攻修士課程　○松井　浩志
川崎医療福祉大学医療福祉学科　熊谷　忠和

【要　旨】

2000年に施行された介護保険制度の大きな特徴は「ケアマネジメント」の導入である．そして，その推進役として介護支援専門員（ケアマネジャー）が新たに創設された．介護支援専門員は，新しい資格がゆえに，職業的アイデンティティの持ち難さが考えられる．

本研究では，介護支援専門員の職業意識形成の状況や経過を明らかにし今後の介護支援専門員の業務の質の向上や成長課題の示唆を得ることを目的とする．

調査対象は，現役でかつ5年以上の経験（ベテランとする）がある介護支援専門員で調査協力に承諾した7名とした．内訳は，基礎資格別では，保健師1名，看護師1名，社会福祉士3名，介護福祉士2名．所属別では，居宅介護支援事業所4名，地域包括支援センター3名であった．調査方法は，個別での聞き取りとし，面接方法は非構造化面接とした．分析方法は，「ライフストーリー法」とし，介護支援専門員の職業意識形成要因について分析した．

研究結果として，以下のような分析がなされた．①マスターナラティブからモデルストーリーそして，ニューストーリー（ベテランの境地）への展開があった．②人生の転機に“人”との関わりが重要な役割を果たすことが語られた．③人生の転機と時代の変化との関連が見られた．④“介護支援専門員”としての職業意識形成過程に，基礎資格の持つ職業意識と介護支援専門員の職業意識に加え個人の“援助者像”の形成が強く影響していた．

考察として，ストーリーのダイナミックスが見られ，その転換期において，人との「出会い」の要素，「社会的コンテクスト」の要素，その人の持つ「ストレングス」の要素が深く関与していると考えられた．しかし職業意識形成については，介護支援専門員資格の成立過程も関係しているが，むしろ個人が積み上げた「援助者像」に強く向けられていると考えた．